

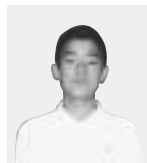
# 『生き方探究・チャレンジ体験』体験記

本学図書館では、平成 18 年 6 月 12 日(月)から 6 月 16 日(金)にかけて中学生が社会体験活動に取り組む「生き方探究・チャレンジ体験」に協力し、中学生 2 名を受け入れました。(詳細は 7 頁に記載)これは、その中学生の体験記です。

## 「大人になったら必ず生きてくる体験」

京都市立衣笠中学校 2年 吉田 尚昌

僕は 6 月 12 日から 5 日間「生き方探究・チャレンジ体験」という学校の行事で京都外国語大学の図書館でお世話になりました。最初、学校でもらったプリントには図書館の本の整理と書いてあったので簡単そうだなあと思っていました。でもいざ来て 5 日間のスケジュールの紙をもらって見てみるとキャプションの作成、カウンターの仕事、展示会の仕事などが書いてあって長い 5 日間になるだろうなあと思っていました。でも始めてみるとあっという間でした。まず、いろんな所の見学、説明をしていただきました。最初の日の昼食は初め静かだったけどおもしろい話もあり、楽しく食べました。



午後は本の検索をしました。それから受付、カウンターの仕事の説明をしてもらい、実際にその仕事を体験させてもらいました。最初は、カウンターの係の人に教えられてばかりだったけど途中からは自分で少しはできるようになり、貸し出しや返却ができるようになりました。

次に貴重書とキャプションの説明をしていただきました。そして実際にキャプションを作りました。その次は展示会の準備と仕事をしていました。大学生の前で説明するのはとても難しかったですがとてもよい体験になりました。

この 5 日間で教わったたくさんのは、大人になったら必ず生きてくると思います。

## 初めて見た『解体新書』

京都市立衣笠中学校 2年 太田 将生

僕は中学校の『総合学習』の授業でこの大学に職場体験のお世話になりました。

ここに来て驚いたことは、コンピューターがたくさんあり、ほとんどの仕事がコンピューターで成り立っているということ、本が 49 万冊あるということでした。この仕事をさせてもらって一番楽しかったことは閲覧カウンターの仕事です。その理由はコンピューターも使えてバーコードをスキャンするのがおもしろかったからです。疲れた仕事は、キャプション作りと展示会の仕事です。キャプション作りではカウンターを使って紙やのりパネルを切る仕事でした。失敗してはいけないというプレッシャーでその日はとても疲れしました。展示会の仕事は、この大学の『ガリバー旅行記』などの児童文学の貴重書を展示してそれを僕たちが大学生に説明する仕事でした。午前中は緊張してなかなか言葉が出なかったけど午後からは最初に比べて声が出てきたけどもっと頑張らなければならないと思いました。



すごいなと思ったことは貴重室には世界の古く珍しい貴重な本や物がたくさんあったことです。貴重室はほこり臭く、手袋で本をなでると手袋にはほこりがつきました。またその部屋には『解体新書』の本物があって、とても驚きました。この大学に来て働いたこの 5 日間はいろんな体験をさせていただきとても楽しかったと思いました。